

適性検査Ⅰ

注 意

- 1 問題は **1** のみで、3 ページにわたって印刷してあります。
- 2 検査時間は四十五分で、終わりは午前九時四十五分です。
- 3 声を出して読むはいけません。
- 4 答えは全て解答用紙に明確に記入し、解答用紙だけを提出しなさい。
- 5 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- 6 受検番号を解答用紙の決められたらんに記入しなさい。

東京都立立川国際中等教育学校

1 次の文章を読み、あとの問題に答えなさい。

(*印のついている言葉には本文のあとに〔注〕があります。)

アメリカの環境倫理学では、長らく「自然の価値論」という議論が行われてきました。それは「自然にはどのような価値があるか」を問うものですが、なぜこのような議論をしなければならなかったのでしょうか。それは、自然を守るという主張に対して、「なぜ自然を守らなければならないのか」という疑問が呈されるからです。その疑問に対して「自然には〇〇の価値があるから守らなければならないのだ」と答えるとき、〇〇にあたるものは何なのか、を検討するのが環境倫理学の課題だったのです。簡単に言えば、自然を守る理由を探究してきたわけです。では、アメリカの環境倫理学はどのような答えを用意したのでしょうか。一つは「道具的価値」というものです。これは、自然は人間にとって役に立つから守るべきなのだ、という答えです。ここには人間の道具としての自然を守るという考え方があります。

もう一つは「内在的価値」というものです。これは、自然はそれ自体が素晴らしいものだから守るべきなのだ、人間にとって役に立つかどうかとは無関係に守るべきなのだ、という考え方です。

みなさんは、なぜ自然を守るのか、と聞かれたときにどう答えるでしょうか。ここで、先に示した二つの陣営（人間のためVS自然自体のため）に分かれて議論することも可能ですし、アメリカの環境倫理学ではそ

する傾向がありました。

しかし、こういう二分法についてはこんな疑問もわくでしょう。自然を守る理由をもっとたくさん挙げることができると、どうしてこの二つに絞らなければならないのか。特定の場所の自然が問題になっているときには特にそうでしょう。

たとえば、「この自然は美しいから守るべき」という理由は、その場所の自然を美的に楽しむ人間本位の理由でもありますが、かといって道具としての価値とは言い切れず、むしろその場所の自然自体のすばらしさを重視しているように思えます。

あるいは「この森には神様が宿っているから開発してはいけない」という場合はどうでしょうか。こういう文化的・宗教的な理由は、「道具的」でしょうか、「内在的」でしょうか。文化や宗教も人間のための道具だ、と割り切る人には「道具的」といえるかもしれませんが。しかし多くの場合、文化や宗教は道具を超えたものと理解されているように思います。

このように考えていくと、先の二分法にとられず、多様な理由をすべて尊重しながら議論していくほうが、よりよい結論を生み出すように思われます。実際に、近年の環境倫理学では、自然を守る理由はたくさんあることが認められるとともに、自然を守るのは自然のためでもあるし、人間のためでもある、という考え方に意見が集約されてきています。

これに関連して、環境倫理学における「保存 (preservation)」と「保

全 (conservation)』の区別について紹介^{しやうかい}します。どちらも「守る」という点では同じですが、守る理由が異^{こと}なります。環境倫理学では「保存」は「自然のために守る」、「保全」は「人間のために守る」という意味で使われてきました。しかし先にふれたように、最近では、この区別はあまり重視されなくなりました。

少しややこしいのですが、自然を守ることを学問的使命にしている保全生態学の分野では、「保存」は「人間が手をつけないで守ること」とされ、「保全」は「人間が手を入れながら守ること」とされています。これは今でも通用している区分で、また重要な区分でもあります。以下で詳しく見ていくことにします。

みなさんは「自然破壊^{しぜんはかい}」といった何をイメージしますか。たぶん「開発^{かいはつ}」や「乱獲^{らんかく}」などが自然破壊のイメージだと思います。そこから「自然保護」というのは開発や乱獲といった人間の行いから自然を守る、ということになるでしょう。この場合、自然を「保存」(人間が手をつけないで守る)すべきということになります。

加えて近年では、別のタイプの「自然破壊」に注目が集まっています。それは、里山の荒廃^{せうはい}という形の自然破壊です。「里山」とは、人が手を入れて管理してきた山林や田畑のことを指します。里山の荒廃とは、^{過疎化}過疎化などによって山林や田畑が管理されずに放棄^{ほうき}され、荒れ果てることを指します。この場合、人が手を入れなくなったことが問題で、このような自然は「保全」(人間が手を入れながら守る)がなされるべきだと

いうことになります。

一般^{いっぱん}に、いったん人が手を加えたものに関しては、手を加え続けて維持^じするのが正解だとされています。たとえば、家屋をきれいに維持するために、「できるだけ家にいないようにする」というのは間違いで、これを実行すると家はほこりだらけになります。正解は「掃除^{そうじ}をしながら住む」ことです。これと同じように、人が手を入れてつくりあげた里山は、未永く手入れを続けたいといけません。

このように自然破壊に二つのタイプがあるので、それと対応する形で、自然保護にも二つのタイプがあります(自然破壊の種類としては、外来種や化学物質による破壊と、地球温暖化^{おんだんか}による破壊という、あと二つのタイプが設定されていますが、ここでは省略します)。それが「保存」と「保全」なのです。生態学者の吉田正人は、英語の頭文字をとって、それぞれを「P型」の自然保護、「C型」の自然保護と呼んでいます。

(吉永明弘「はじめて学ぶ環境倫理」)

未来のために『しくみ』を問う』による)

〔注〕 環境倫理学——人間がどのように生きるべきかを、環境問題

に関連させて研究する学問。

呈^{てい}される——目の前に出されること。

内在的——もともとそのものの内部に備わっているさま。

陣^{じん}営^{えい}——対立する集団の一方。

傾向——そうなりやすいこと。

人間本位——判断や行動をするときに中心とする基準を

人間におくこと。

乱獲——自然のものをむやみに取ること。

荒廃——荒れ果てた状態になること。

過疎化——人口が極たんに少なくなること。

〔問題1〕 「なぜ自然を守らなければならないのか」とありますが、こ

の問いについて、筆者はどのような考えを持っていますか。

五十五字以上六十五字以内で説明しなさい。

〈注意〉

答えは「まずめから書き、段落を変えてはいけません。

、や。や」などの記号もそれぞれ字数に数えます。

〔問題2〕 「このように自然破壊に二つのタイプがある」とありますが、

ここでいう二種類の自然破壊の違いとはなんですか。五十字

以上六十字以内で説明しなさい。

〈注意〉

答えは「まずめから書き、段落を変えてはいけません。

、や。や」などの記号もそれぞれ字数に数えます。

〔問題3〕 『C型』の自然保護」とありますが、このことを説明する

のに、筆者は家屋と掃除の関係という身近な例を挙げていま

す。そこから読み取れる態度は、学校生活においてリーダー

として目標を達成する上で、どのように生かせるでしょうか。

掃除とは別の場面を具体的に挙げながら、四百六十字以上

五百字以内でああなたの考えを述べなさい。

〈注意〉

文章には段落をつけ、必ず二段落以上になるようにしなさい。

書き出しや段落を変えたときの空らんば字数に数えます。

、や。や」といった記号もそれぞれ字数に数えます。